

# 事業計画の概要

平成18営業年度 東北支社

1 . はじめに	1
2 . 計画概要	2
3 . 東北地方の高速道路建設・管理事業のトピックス	3
4 . 東北地方の高速道路建設事業の事業計画	6
5 . 東北地方の高速道路管理事業の事業計画	8
6 . サービスエリア・パーキングエリア事業の事業計画	1 5
7 . トラックターミナル事業及び新規事業の事業計画	1 6
8 . 道路受託事業の事業計画	1 6

《参考資料》

平成 1 8 年度完成予定区間の概要 [磐越自動車道(拡幅)小野 IC ~ 阿武隈高原 SA]

## 1.はじめに

東日本高速道路株式会社は、政府の特殊法人改革により、平成17年10月1日に設立、スタートいたしました。

NEXCO東日本は、『お客様に信頼され真に国民のためになる』ことを目指し、次の経営方針を掲げています。

- ・ 高速道路をご利用されるお客様とのふれあいを第一に、お客様の満足の向上に努めます。
- ・ 徹底したコスト削減のもと、効率的な経営を行い、高速道路の貸付料を着実に支払います。
- ・ 談合等の不正防止やファミリー企業の見直しなど、公正・透明な経営を通じ、信頼性の向上に努め、企業の社会的責任（CSR）を果たします。

NEXCO東日本としては、これらの方針を実現していくため、平成18年度以降の具体的な経営方針・経営目標（数値目標）を定める『中期経営計画』を本年10月を目途に策定することとしています。

平成18営業年度事業計画は、NEXCO東日本として初めて1年間を通じた事業計画であるとともに、今般日本高速道路保有・債務返済機構との間で締結した高速道路事業に関する協定の内容に従い、かつ、それぞれの施策はこれから策定する『中期経営計画』にもつながっていくものです。

今年度は民営化会社として本格的なスタートを切る年であり、公団時代の事業運営方式から脱却し、株式会社としての経営のしくみを形づくっていく重要な時期ととらえ、会社全体が進むべき方向を見定めつつ、それぞれの施策を着実に実行していきます。

## 2 . 計画概要

平成 1 8 営業年度事業計画は、日本高速道路保有・債務返済機構との協定締結により、本格的に民営化の枠組みが動き出して初めての事業計画であり、高速道路事業については基本的に協定の内容に整合したものとしています。

高速道路事業以外の事業については、サービスエリア・パーキングエリア事業や駐車場事業など日本道路公団から継承した事業のほかに、新たな事業に取り組みます。

### 3. 東北地方の高速道路建設・管理事業のトピックス

信頼性の高い高速道路の構築のため、高速道路ネットワーク機能の強化を進めます。

#### 【トピックス1】

『平成18年度内に磐越自動車道（小野IC～阿武隈高原SA間）の4車線化が完成します』

平成18年度4車線化完成区間位置図



磐越自動車道（小野IC～阿武隈高原SA）の現況

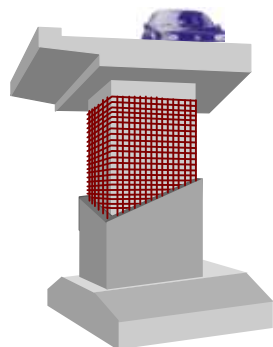


大規模地震に耐える安心な高速道路を提供します。(大規模地震対策)

【トピックス2】

『平成18年度で宮城県沖地震に備えた橋梁の耐震補強対策が完了します』

- ・万一の場合、緊急輸送路として被災エリアへ救援物資を輸送するなど、早期復旧に大きく寄与します。
- ・東北地方全体では、想定される宮城県沖地震への対応など、阪神・淡路大震災クラスの地震にも耐えるようにするための耐震補強対策が、約97%完了します。
- ・平成19年度には全て着手し平成20年度までには全て完了する予定です。



補強工法(コンクリートによる巻き立て)



補強工事の実施状況

安全に走行していただくためのお手伝いをします。(視距改良対策)

【トピックス3】

『東北道 白石IC~仙台南IC間でカーブの見通しを良くする工事(視距改良対策)に着手します』

- ・線形が厳しい東北道 白石IC~仙台南ICは、事故多発区間の解消に向け、注意喚起標識、視線誘導灯、視距改良対策などの交通安全対策を継続的に実施しています。
- ・H17年3月には下り線側に視線誘導灯を設け夜間の安全性が大幅に向上しました。
- ・更にカーブ区間を拡幅して、見通しを良くする工事に着手します。



注意喚起標識・視線誘導灯の設置



改良後の見通し状況(例)

## 休憩施設におけるお客様サービス

### 【トピックス4】

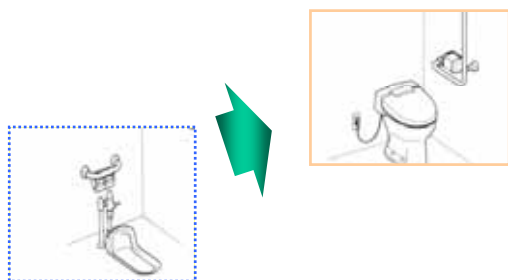
『サービスエリア等の洋式トイレ便座が全て暖かくなります。』

- ・東北地方の寒さに「ホッ」とする朗報。次の冬までに洋式便座を全て暖房仕様にし  
ます。
- ・H17年度までに全113箇所（上下線集約トイレ1箇所を含む）のうち88箇所  
（約8割）整備済み。残りをH18冬までに整備します。

### 【トピックス5】

『サービスエリア等のトイレのバリアフリーを推進しています。』

- ・身障者駐車スペースは全て設置完了し、上屋の設置やトイレの段差解消に向けバリ  
アフリーを推進しています。



暖房便座の設置



段差を解消したトイレ

## ETCの利便性向上とETCを活用した弾力的な料金設定

### 【トピックス6】

『お客様に満足していただけるようなETCを活用した料金サービスを展開していきます。』

- ・すべての道路において、料金の額50円につきマイレージポイントを1ポイント付  
加します。（従前：一般有料道路100円につき1ポイント。割引率増）
- ・関係機関と連携し、二輪車ETCの試行を進め、今秋の本格導入を目指します。

### 【トピックス7】

『ETC普及促進の取り組みを継続して展開します。』

- ・東北地方のETC利用率は、2月で50%を突破しました。更なるETC利用率の  
向上を目指して、PRキャンペーンなどETC普及促進の取り組みを展開します。
- ・ETCマイレージサービスを活用したETC車載器購入支援策（600ポイント付  
加）を平成18年9月末まで継続します。

## 4．東北地方における高速道路建設事業の事業計画

平成18営業年度の高速道路の新設事業については、東北中央自動車道24km、常磐自動車道83kmの計107km区間において高速道路ネットワークの整備を進めるとともに、改築事業については、全体27kmのうち、約4.8kmの4車線化完成を図ります。

平成18営業年度の高速道路の新設は、常磐自動車道など計2道路107kmの区間で、4車線化等の改築は、東北横断自動車道27kmの区間で事業を実施します。

事業実施にあたっては、コスト削減への継続的な努力を前提に、信頼性の高い高速道路ネットワークを構築するため、機構との協定に基づき計画的かつ重点的な高速道路整備を行うとともに、その機能の向上・強化を図ります。

また、地球温暖化防止のため、新設する高速道路の斜面に植樹しCO<sub>2</sub>の削減に努めるとともに、確実に品質を確保するため、体制の強化や技術の開発・活用を行い、「良いものをいかに安く作るか」という課題に積極的に挑戦していきます。

本営業年度内の開通及び完成区間として、以下の4車線化の完成を予定しています。

### 【4車線化完成予定区間】

- ・磐越自動車道（小野IC～阿武隈高原SA）：4.8km

### 【東北支社新設事業区間】

道路名	区間 (箇所)	延長 (km)	備考
高速自動車国道の新設			
東北中央自動車道	南陽高畠 ～山形上山	24	
常磐自動車道	常磐富岡 ～亘理	83	
合計		107	
高速自動車国道の4車線化			
磐越自動車道	いわきJCT ～郡山東	27	4車線化延長 平成18年度完成予定区間 (小野IC～阿武隈高原SA間 4.8km)を含む
合計		27	



## 【新設事業の現況】

### 常磐自動車道（福島県内）の現況



### 常磐自動車道（宮城県内）の現況



## 5 . 東北地方における高速道路管理事業の事業計画

安全で円滑な交通を確保するとともに、お客様に満足していただけるサービスを提供します。

また、トータルコストを削減し、効率的な道路管理に取り組みます。

安全で快適な走行環境を確保するため、交通安全対策を推進するとともに、舗装の高機能化など道路機能の維持・向上を図ります。

安全で安心してご利用いただけるよう、路面や構造物、施設設備などの維持・点検に努めます。

雨天時の走行環境を向上させるため高機能舗装化を進めます。

- ・東北道、常磐道などで高機能舗装化を進め、管内の高機能舗装率を約45%から約48%に向上させます。

高機能舗装とは、排水機能を有する舗装で、雨水が路面に溜まらないため、雨天時の事故を大幅に減少させるほか、水はねが少なく走行環境を向上させます



通常舗装

高機能舗装

地域の交通特性、お客様のニーズを反映した、より安全で効率的な工事規制の実施に努めます。

強化型中央分離帯防護柵の整備など、効果的な交通安全対策を実施します。

- ・東北道で強化型中央分離帯防護柵を整備し、管内の強化型防護柵整備率を約75%から約76%に向上させます。
- ・東北道(白石 IC～仙台南 IC 間)でカーブ区間を拡幅して見通しを良くし、安全性を高める工事に着手します。

凹凸型路面標示や導流レーンマークの設置など、暫定2車線区間の安全対策を進めていきます。

- ・車線逸脱防止効果のある凹凸型路面標示や速度抑制効果のある導流レーンマークの設置を秋田道、磐越道などで実施します。

道路の定時性を確保するため、通行止時間の削減を目指すとともに、渋滞対策の推進や道路情報提供の充実を図ります。

関係機関との連携により通行止の際には迅速な交通の回復に努め、通行止時間の短縮を図ります。

- ・迅速・効率的な作業・点検等により通行止時間の短縮を目指します。

渋滞時速度回復情報や渋滞予測情報の提供などを実施するなど、渋滞緩和に努めます。

情報提供機器をより有効に活用し、リアルタイムで詳細な情報提供の更なる充実に努めます。

- ・大きな渋滞の発生や大雪が予測される場合には、臨時に情報板を設置します。

渋滞、交通事故及び気象変化等による交通の障害となる事象を的確かつ迅速に提供するため、より多くの情報が提供できるLED道路情報板の整備を引き続き実施します。また、休憩施設を拠点とした情報提供の強化を図るため情報ターミナルの整備を実施します。

通行止発生時には、開通を待たれているお客様に対して、様々な手段により、通行止解除に向けた作業状況などの情報を提供していくよう努めます。

- ・休憩施設エリア内の拡声器などによる情報提供、料金所での情報提供、電話での対応、マスコミへの情報提供等、様々な手段によりできる限りの情報を提供できるよう努めます。



本線情報板



簡易情報板



冬期間の交通を確保するため、雪氷作業や雪氷対策設備の更なる充実を図るなど、雪に強い道路を目指します。

冬季間の気象変化に対しても極力交通を確保するよう、地域・気象特性に即した雪氷作業を行います。

- ・地域・気象特性を考慮し、道路の特性に応じた効率的な雪氷作業に取り組みます。



道路の特性に応じた雪氷作業

冬季の安全な高速道路のご利用のための情報提供を充実させます。

- ・路面や気象の状況について、お客様の安全な通行のための情報提供を行っていきます。

除雪車Uターン路などの雪氷対策設備を設置し、雪氷作業性の向上を図ります。

- ・秋田道で除雪車Uターン路を設置します。

降雪時の走行性向上のため、防雪柵の設置など、視程障害防止対策を進めます。

- ・青森道、秋田道、山形道などに防雪柵や自発光型視線誘導標を設置します。



防雪柵

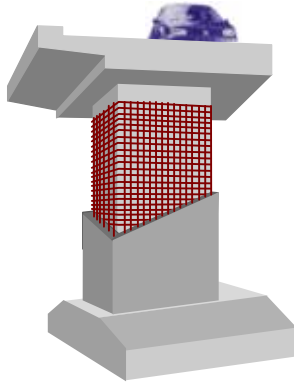


自発光型視線誘導標

災害に強い道路ネットワークを構築するため、橋梁の耐震補強など防災対策を推進します。

阪神・淡路大震災クラスの大地震にも耐えられるよう、対策が必要な橋梁の補強を行っています。

- ・東北道、八戸道などで橋梁の補強を行い、管内の橋脚耐震補強率を約92%から約97%に向上させます。



橋脚の耐震補強

高齢者・身障者の方にも利用しやすい道路空間を創出します

高齢者・身障者などハンディキャップのある方が身障者用駐車スペースを利用される際、雨天時でも快適にご利用できるよう上屋を整備するとともに、駐車スペースからお手洗いまでの間にコリドール（屋根付き通路）の整備を進めます。



コリドール（屋根付き通路）

お手洗いのバリアフリー化を引き続き実施するとともに、全てのお手洗いに暖房便座の設置を行います。



段差解消・多目的お手洗い

E T Cの利便性向上、E T Cを活用した弾力的な料金設定、接客マナーの向上などお客様サービスの充実に取り組みます。

E T Cを活用してお客様に満足していただけるような料金サービスを展開していきます。

- ・マイレージサービスを活用した車載器購入支援策（600ポイント付加）を継続します。
- ・すべての道路において、料金の額50円につきマイレージポイントを1ポイント付加します。

更なるE T C利用率の向上を目指して、P RキャンペーンなどE T C普及促進の取り組みを展開します。

お客様に、より快適にE T Cによる走行をしていただくため、E T C諸設備の整備を進めていきます。

- ・カード未挿入をお知らせするアンテナの整備を進めることにより、E T Cレーンで停止する率の約10%削減を目指します。

関係機関と連携し、二輪車E T Cの試行を進め、今秋の本格導入を目指します。

接客マナーを向上させ、お客様に気持ち良くご利用していただけるよう努めるとともに、割引料金を分かりやすくご案内するなど、お客様の声に適切にお応えしてサービスの向上に努めます。



二輪車E T Cの試行状況

技術開発を推進することなどによりトータルコストを削減し、効率的な道路管理に取り組みます。

新技術の開発を進め、また新工法を採用するなど、コスト削減を目指します。

ライフサイクルコストの最小化を図るマネジメント手法を導入するなどし、道路構造物の延命化を図るなど、効率的・効果的な道路管理に取り組みます。

環境の保全に配慮した道路管理に取り組めます。

遮音壁の設置等、沿道の生活環境保全に必要な環境対策を適切に実施します。

CO<sub>2</sub>の吸収・固定などの地球温暖化防止に資するため、盛土のり面の樹林化を進めます。

循環型社会の育成に資するため、建設発生土、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊などの建設副産物のリサイクルを推進します。

植物発生材の堆肥化など緑のリサイクルを推進し、循環型社会の形成に貢献します。

地域、関係機関、他の高速道路会社等との連携を強化し、高速道路による社会への貢献を目指します。

地域の観光施設やイベントとタイアップして利用促進を図るなど、地域に根付いた高速道路を目指します。

常に安全で安心して円滑にご利用いただき、高速道路が地域のくらしの向上に寄与するよう、道路管理を適切に行います。

大規模災害時には、関係機関や他社との連携を図り、高速道路が緊急輸送路として迅速かつ円滑に機能するよう努めます。



## 6 . サービスエリア・パーキングエリア事業の事業計画

サービス水準の向上と個性的なサービスを展開し、お客様にご満足を提供するとともに、収益の拡大を目指します。

収益向上に向け、すべてのエリアでのサービスレベルの向上を目指す「礎づくり」と、立地の特性に応じて個性的なサービスを展開する「華づくり」という2つの面を同時に追及し、サービスエリア・パーキングエリアの魅力を高めます。

礎 = 広い範囲内のお客様に共通するニーズに的確にお応えするための飲食・物販施設の積極的導入

華 = 土産品や地場で採れた野菜など、そのSA・PAならではの地域商材や、そこでしか食べられない地場料理の提供

管理・運営事業としては、4月1日に財団法人より事業の譲渡を受け、当社全額出資の子会社「ネクセリア東日本株式会社」と一体となり、北海道縦貫自動車道有珠山サービスエリアなど計265箇所の管理・運営を行います。

そのうち、東北支社においては、東北縦貫自動車道安達太良サービスエリアなど計114箇所の管理・運営を行っています。

SA・PAの施設の設置状況（平成18年3月1日現在）

	SAPAの施設箇所数	うち飲食物販施設を有する施設	うちガスステーションを有する施設	うち飲食物販施設及びガスステーションを有する施設
全社	265箇所	182箇所	80箇所	80箇所
東北支社	114箇所	56箇所	32箇所	32箇所

### 【取組みのイメージ】

礎づくり・コンビニエンス・ストアの展開（鏡石PA（下））



華づくり・地場生鮮野菜の販売（前沢SA（上）野菜直売所）



## 7. トラックターミナル事業及び新規事業の事業計画

経営資源を有効に活用し、効率的な事業の遂行に努めるとともに、多様なビジネスを展開します。

旧日本道路公団からの承継事業として、仙台南及び郡山ターミナルのトラックターミナル事業の運営をより効率的に進めます。

広告事業については、平成17年度から開始した自社ホームページを介したバナー広告事業に加え、新たにドライバーに役立つポータルサイトを構築し、事業拡大を図ります。

高速道路を始めとする経営資源を活用した新たな事業として、会社が有する技術的ノウハウを活かし他の事業者の行う道路事業を支援するコンサルタント事業を予定しています。

## 8. 道路受託事業の事業計画

長年培ってきた技術とノウハウを活かし、国、地方公共団体等の事業推進に貢献していきます。

新直轄方式で整備することとなった高速道路について、技術とノウハウを活かし、事業推進に協力するとともに、信頼性の高い高速道路ネットワークの構築に貢献します。

経済性、効率性、施工性等の観点から、同時に実施することが有効であると認められる事業についても、事業受託することで高速道路の整備と一体となって推進します。